

新中央図書館 設計イメージブック

みんな  つくる図書館



設計コンセプト

心地よい緑の中で、ひたちなかの魅力に出会える、
交流・情報・創造拠点



公園とまちの両側に開かれ、回遊空間「シビックリング」を中心に多様な利用や活動が広がる空間構成

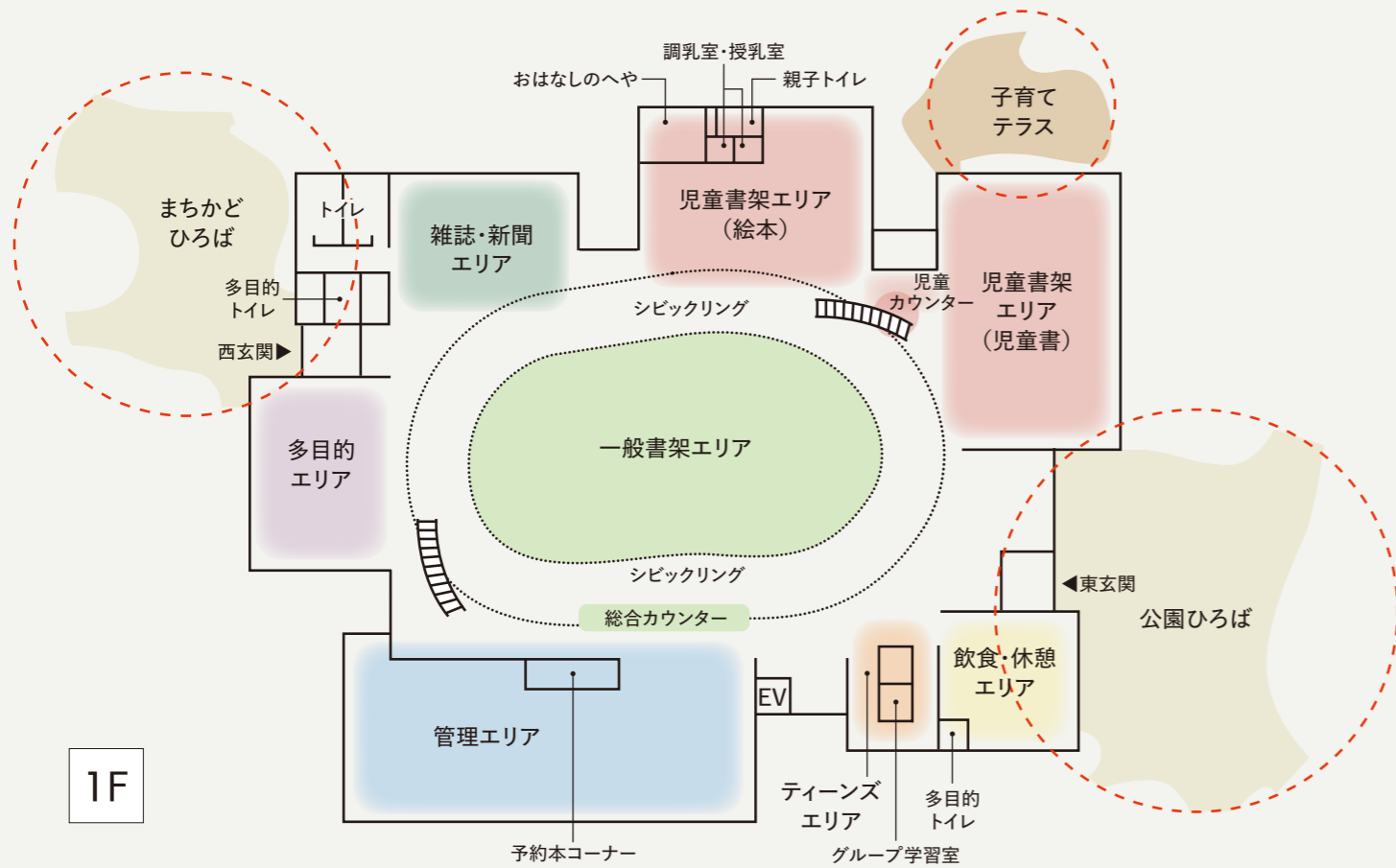
- 1 公園との一体的な整備を活かした、
まちとつながる図書館
- 2 “人の活動・まちの情報・新たな本”と出会える
「シビックリング」を骨格とした図書館
- 3 様々な活動が独立しつつ共存できる、
誰もが安心して利用できる図書館

新中央図書館は、
中心市街地に位置する緑豊かな公園の中に整備されます。
勝田駅側と東石川第4公園側の両方に玄関と広場を設け、
どちらにも開かれた図書館です。

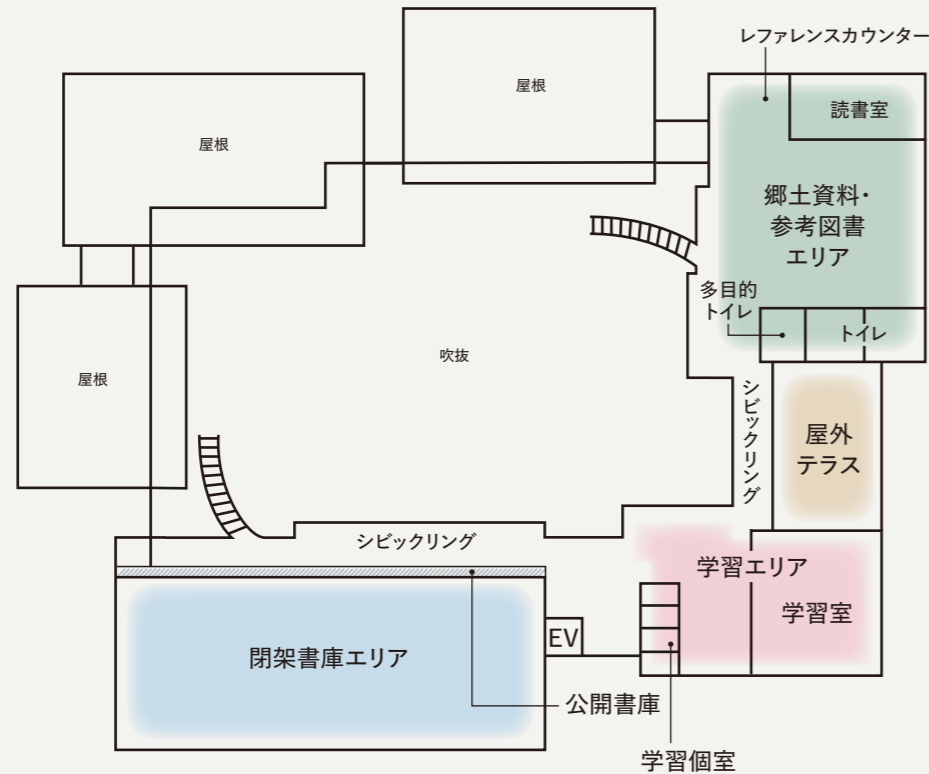
館内には、本やまちの情報、人々の活動が交わる
回遊空間「シビックリング」がめぐり、
まちと人、人と人がつながる場として計画されています。

心地よい緑の中で、人や情報、本との出会いが広がる。
そんな、まちとつながる図書館です。

施設概要・フロア構成



1F



2F

1 公園との一体的な整備を活かした、まちとつながる図書館

1. 緑・光・風あふれる快適な図書館

館内のどこからでも公園の景観や木々の揺らめきを感じられる、公園の中に建つ図書館ならではの館内環境をつくります。
また、年間を通して安定した間接光が得られる北側の自然採光を活かして、明るく快適な空間となる設えとしました。

2. まちとつながる2つの広場

勝田駅側(西側)と東石川第4公園側(東側)の両方に玄関を配置し、アプローチ空間に「まちかどひろば」と「公園ひろば」の2つの広場を設けます。
図書館や公園と連携したさまざまなイベントが可能なスペースとすることで、中心市街地の活性化にも貢献します。

2 "人の活動・まちの情報・新たな本"と出会う「シビックリング」を骨格とした図書館

1. 人・まち・本との出会いを生む

中央の書架エリアを囲む回遊空間「シビックリング」を設け、本やまちの情報、人の活動の発信の場としています。
シビックリングを巡ることで、読書やひたちなかの魅力に出会える図書館を目指します。

2. 市民ワークショップで生まれた"市民のアイデア"を生かした活動・展示空間

シビックリングは、市民ワークショップで生まれたアイデアを生かし、ひたちなかならではの多様な活動や展示に対応できる空間としています。移動可能で多用途に使える家具を配置することで、利用シーンに応じてカスタマイズできる設えとしました。
※シビックリングについては、P7で詳しく紹介しています。

3 様々な活動が独立しつつ共存できる、誰もが安心して利用できる図書館

1. 中央に開架書架、外周部に各活動エリアを分散配置

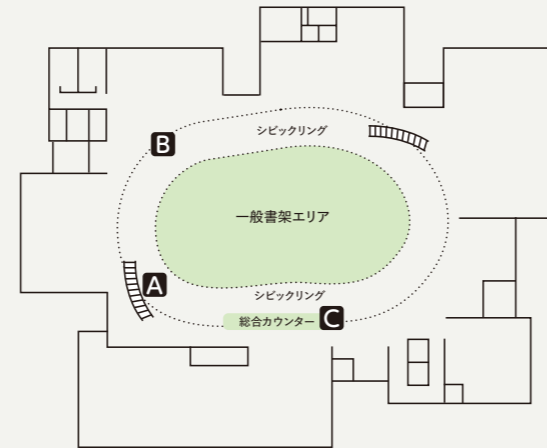
施設中央に一般書架を配置し、その周囲に活動エリア(雑誌・新聞、児童書架、多目的、管理・閉架書架、ティーンズ、飲食・休憩、学習、郷土資料・参考図書)を設けました。
各活動エリアを適度な距離でゆるやかにつなぐことで、エリアごとの独立性を確保しつつ、相互に利用しやすい構成としています。

2. 見通しの良い大きなワンルーム空間

中央の一般書架エリアに設けた吹抜け空間と柱や書架の配置・構造により、館内の見通しを確保し、誰もが安心して利用できる環境づくりを行いました。
また、館内を一望できることで、さまざまな展示や活動が自然と視界に入り、本や人との偶発的な出会いや、新たな興味・関心が生まれる図書館としています。

一般書架エリア・シビックリング 1F

中央に一般書架、外周部に各活動エリアを配置し、その間に回遊空間「シビックリング」を設けています。



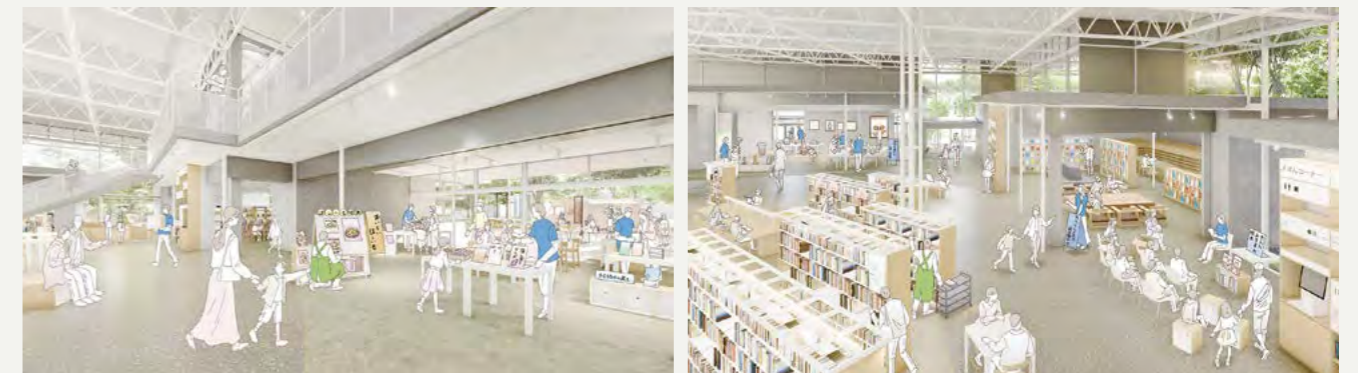
● 一般書架

施設の中央に、どこからでもアクセスしやすい一般書架を配置しています。中央に配置することで、日差しによる図書の日焼けにも配慮しています。



● 総合カウンター

シビックリングに面したわかりやすい位置に総合カウンターを配置します。近くには、利用者自身で予約本を受け取れるコーナーも設ける計画としています。

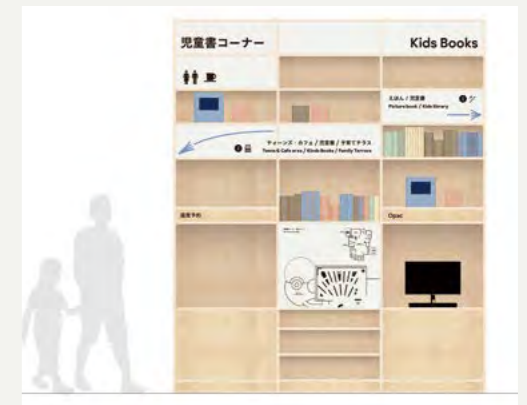


シビックリング

中央の一般書架エリアをリング状に囲む回遊空間。シビックリングでは、関連本や実物資料、デジタル情報を組み合わせた特集コーナーを展開するとともに、隣接する各活動エリアの資料や活動が自然と視界に入る構成としています。これにより、来館者と本、まち、人の活動との新たな出会いを生み出します。また、市民ワークショップなどで生まれたアイデアを生かし、市民や団体、事業者と連携した多様な展示や活動を行う場として、柔軟に活用できる空間としています。

サイングラフィック

サインにはやわらかなカーブの矢印を取り入れ、シビックリングをめぐる楽しさ、来館者が館内を散策したくなるようなデザインとしています。



児童書架エリア(絵本・児童書)

1F

幼児向けの絵本エリアと児童向けの図書エリアを分けつつ隣接させることで、成長に応じて自然と使い分けや移行がしやすい構成としています。



● 児童書エリア

子どもたちの成長に寄り添い、読書の幅を広げる空間としています。

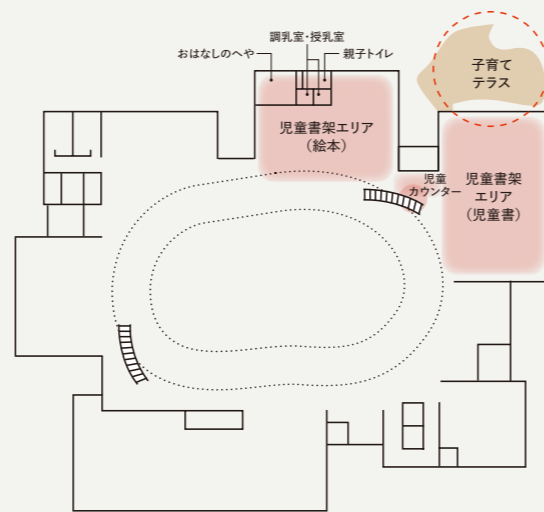


● 絵本エリア

靴を脱いで利用できる小上がりや、おはなし会を行う「おはなしのへや」を設けています。

● 子育てテラス

絵本エリアと児童書エリアの間に屋外テラスを設け、公園の緑や光、風を感じながら、親子で一緒に読書や休憩ができる空間としています。



活動エリア

1F

さまざまな活動や展示を行える賑わいのある空間を中心に、多世代の利用が心地よく共存するフロア構成としています。



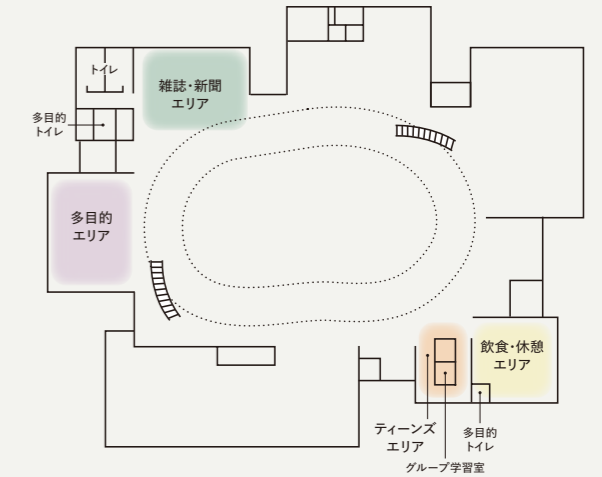
● 雑誌・新聞エリア

西玄関から入ってすぐの場所に配置し、幅広い世代が気軽に立ち寄れる空間としています。手に取りやすい雑誌や新聞を揃え、日常的に利用しやすいスペースとしています。



● 多目的エリア

講座や映画会など、さまざまなイベントに利用できる空間。用途に応じて室内を分割したり、シビックリングに向けて開放することで、広がりのある空間として使える設えとしています。



● 飲食・休憩エリア

公園ひろばに面した明るく開放的な環境で、飲食や休憩ができるスペースとしています。



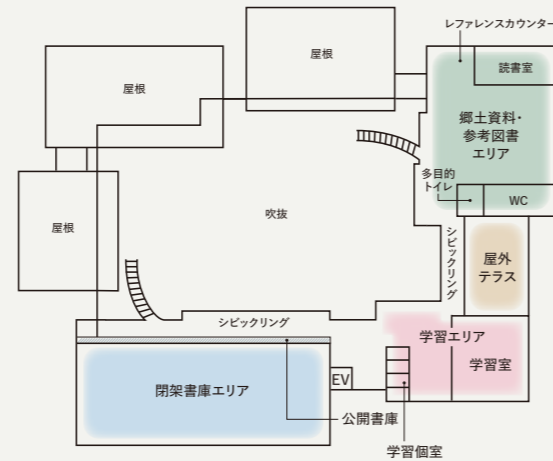
● ティーンズエリア

グループ学習室やボックス席、カウンター席を設け、一人でも、友人とでも利用しやすい空間としています。

活動エリア

2F

学習室や読書室など、静かな環境が求められる機能を中心に、落ち着いた音環境を備えたフロア構成としています。



● 郷土資料・参考図書エリア(読書室)

落ち着いた空間の中で、郷土資料や参考図書を使った調べものができるスペースとしています。静かな環境で読書に集中できる「読書室」も設けています。



● 学習エリア

学習室や学習個室、オープンな学習席など、学習スタイルに応じて利用できる座席を設けています。



● 2階テラス

学習や調べものの合間で息抜きができるテラスを設けています。

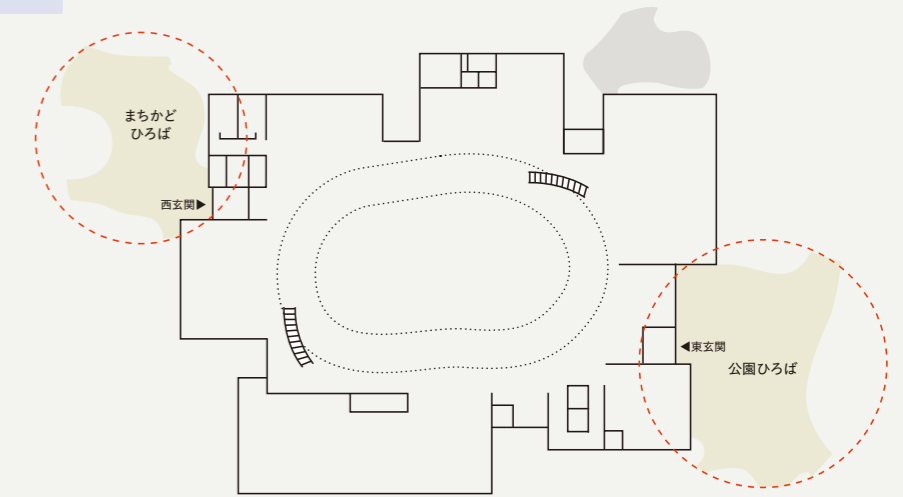


● 公開書庫

吹抜けに面した壁面に書架を設け、図書館ならではの世界観を感じられる印象的な空間としています。

外観・広場

建物の色彩やデザインは、公園の緑や周辺環境と調和する計画としています。また、東西に広場を配置し、図書館と中心市街地・公園をつなぐ空間として整備します。



● まちかどひろば(西側)

勝田駅方面からの来館者を受ける西玄関前の広場。図書館と中心市街地をつなぐアプローチ空間として整備します。



● 公園ひろば(東側)

公園側からの来館者を受ける東玄関前の広場。図書館と公園をつなぐ接続点として相互利用を促進するとともに、イベントなどにも活用できる空間としています。



駐車場・駐輪場

敷地内に約120台の駐車場、約80台の駐輪場を整備します。

新中央図書館整備の歩み

新しい図書館の整備に向けては、基本計画の策定時より、多くの方々からご意見やアイデアをいただきながら検討を進めてきました。設計においても、ワークショップやヒアリングなど、さまざまな機会を通じて多くの方にご参加いただき、意見交換を行って来ました。

pick up 1

“新”中央図書館市民ワークショップ

こいけまさのり 小泉公乃准教授(筑波大学)を講師に迎え、「ひたちなか市のどこ・なにが好き?」「きれいな公園のある図書館で一日なにをして過ごそう?」「新しい図書館の間取りを考えよう!」をテーマに開催。



pick up 2

“新”中央図書館市民ワークショップ

「新しい図書館をみんなでプロデュースしてみよう!」

設計者を変え、参加者がプロデューサーの視点で「みんなが集まる図書館」「本を好きになる図書館」「まちを好きになる図書館」を考えました。また、叶多彦教授(千葉経済大学短期大学部)をゲストに招き、魅力ある図書館にするための展示やイベントなどについて、レクチャーをいただきました。



pick up 3

続・“新”中央図書館市民ワークショップ

基本設計案の公開に合わせて開催。設計者から設計コンセプトや空間の考え方について説明を受けた後、参加者を変えて質疑応答や意見交換を行いました。



2026年

3月
実施設計完了



2025年

pick up 3

6月→9月

パブリックコメントの実施

7月

続・“新”中央図書館市民ワークショップ

「基本設計案を見てみよう!」



9月

課題解決型インターンシップ MIPPE + 茨城高専《5Days》

「若い世代に魅力的な図書館をつくるには?」



8月

学生座談会 @勝田工業高校

「基本設計案を見てみよう!」



9月

基本設計完了

2023年

pick up 1

12月・2月

“新”中央図書館市民ワークショップ《2Days》



2024年

5月→9月

新中央図書館設計業務委託に係る公募型プロポーザル

第1次審査 ▶ 書類審査
第2次審査 ▶ プレゼンテーション・ヒアリング



7月

学生座談会 @勝田工業高校

「若い世代も利用したくなる図書館にするには?」

10月

学生座談会 @勝田高校・勝田中等教育学校

「若い世代も利用したくなる図書館にするには?」

9月

課題解決型インターンシップ MIPPE + 茨城高専《5Days》

「若い世代に魅力的な図書館をつくるには?」

10月

図書館ミニフォーラム

～新中央図書館の整備に向けて～

@中央図書館、那珂湊図書館、佐野図書館



pick up 2

11月→12月

“新”中央図書館市民ワークショップ《3Days》

「新しい図書館をみんなでプロデュースしてみよう!」



11月→1月

子育て世帯ヒアリング

12月

図書館利用者アンケート

図書館に関わる、それぞれの想い

図書館に関わってきた市民の皆さんに、新しい図書館への想いや期待を伺いました。



ひたちなか市立図書館協議会 谷口 昭三さん

ひたちなか市立図書館は、職員の丁寧な対応が利用者から高く評価され、市民に親しまれてきました。新しくなっても、こうした市民との関わりを大切に継続してほしいです。新図書館の周辺には、文化会館や子育て支援・多世代交流施設もあり、図書館には市の文化圏を醸成する中心的な施設としての役割が期待されます。講座や交流などの「動」の場と、静かに集中できる「静」の空間の両方を備え、市民が気づきや学びを得られる図書館になることを願っています。



ひたちなか読書グループ連絡協議会 矢野 洋子さん

自然豊かな公園の中で本と過ごし、友人と語り、展示も楽しめる図書館になることを期待しています。さまざまな人が思い思いに過ごす様子を見ることも嬉しく、一人ひとりの居場所として心地よい時間を過ごせる場になってほしいと感じています。読書グループとして50年活動してきた経験から、新しい図書館でも読書を軸とした多様な活動がさらに広がっていくことを願っています。



ひたちなか読み聞かせ連絡会 永沢 ひとみさん

読み聞かせボランティアを始めて30年。この間、ひたちなか市立図書館の手厚いサポートを受け、読み聞かせ活動を続けてきました。絵本に親しんでもらいたいという私たちボランティアの想いから、図書館と協力して、絵本の原画展や県外からも講師を招いて読み聞かせ講習会などを開催することができました。新しい図書館でも引き続き力を合わせ、読み聞かせを通じて、子どもたちの心を育てる手助けができればと思っています。



茨城工業高等専門学校 中垣 陽斗さん

茨城高専の課題解決型インターンシップ「MIPPE」に参加したのは、小さい頃から親しんできた図書館が生まれ変わると知り、そのプロジェクトに関わってみたいと思ったことがきっかけです。図書館でありながら、さまざまな人が集まり、思い思いに過ごせる空間として設計されていることに感銘を受け、そこに自分のアイデアを残せたらと思いました。学生にとっても交流の拠点となり、市の魅力発信にもつながるような場になったら嬉しいです。



勝田工業高等学校 図書委員・視聴覚委員

学校の近くに新しい図書館ができることにわくわくしています。図面を見ながら意見交換をする中で、本を借りたり勉強したりするだけでなく、創作活動や展示など、活動を広げたい場として大きな魅力を感じました。文化祭など学校行事の情報発信の場としても連携できたら嬉しく、図書館を通じて活動の幅が広がることにも期待しています。学校の活動も、ひたちなかの魅力のひとつとして発信し、交流につながる場になったらいいなと思っています。



深作 真美さん・細希さん

親子とともに成長する図書館

親子そろって本が好きで、図書館は娘が生まれた頃からずっと利用してきた身近な場所。新しい図書館づくりに参加できると知り、興味を持ってワークショップをのぞいてみたいと思いました。小さな子どもたちが遊びながら自然に本と出会い、少しずつ読書の楽しさに触れていける図書館になってほしいです。

みんなが行きたくなる図書館

今の利用者の気持ちを伝えたい、それが新しい図書館に反映されたいと思ひ、ワークショップに参加しました。子どもから高齢者まで多くの人が使えやすく、図書館を目当てにひたちなか市に来られるような場所になったら嬉しいです。



黒坂 菜津美さん

ワークショップ参加者の声

Our Vision

プロジェクトメンバーの想い

設計アドバイザー



なかい たかゆき
中井 孝幸さん

プロフィール

博士(工学) / 一級建築士

愛知工業大学工学部建築学科 教授

ひたちなか市新中央図書館設計業務委託に係る公募型プロポーザル審査委員長、設計アドバイザー、日本図書館協会 図書館施設委員会 委員長

来館を促す「場」としての図書館をテーマに研究。全国約85館の公共図書館を調査・研究の対象としている。全国各地の図書館整備においてプロポーザル委員を務めるほか、珠洲市民図書館(2021年)や新御殿場市立図書館(2026年予定)では、建築設計や家具設計にも携わっている。

人と活動をつなぐ「シビックリング」という発想

住宅地に面した緑豊かな公園内に、林立する既存樹木をなるべく残しながら、新しい図書館が計画されています。開架閲覧室の大部分は、ワンフロア型の平面形で周縁部の各コーナーと中央部の一般開架との間に、図書館での多様な利用や活動が展開できる「シビックリング」が提案されています。

また、このシビックリングは1階だけではなく、2階の開架閲覧室ともつながるなど、立体的な構成となっています。

こうした活動領域がリング状に取り囲んでいるため、各コーナーと一般開架を分断することなく、逆に両者を密接につなぎ留め、唯一無二の「場」として、未永く市民の活動を支え、図書館利用が継続されることを期待されます。

設計者

株式会社 山下設計

(左から)
しのぎ りょうへい
篠崎 亮平さん
こうの たいぞう
河野 泰造さん
はまだ たかひろ
濱田 貴広さん



プロフィール

図書館をはじめとした多くの公共施設の設計実績がある。

丹鶴ホール(新宮市)や尾張一宮駅前ビル(一宮市)、高崎アリーナ(高崎市)、千葉中央コミュニティセンター(千葉市)等を担当。ひたちなか市出身者を含むワンチームで本プロジェクトに取り組む。

主な実績

日本建築学会作品選奨、BCS賞、公共建築賞、国土交通省大臣官房官庁営繕部優良業務表彰、グッドデザイン賞、キッズデザイン賞などを受賞

まち・本・人がつながる21世紀型図書館

数多くのまちづくりプロジェクトが密接に関わりながら同時進行し、新図書館がその中心にあること。

今回の設計を始めるにあたり、私たちが特に大切と捉えた点です。

「シビックプライドを醸成し、それをまちの持続性につなげる図書館とは?」

この問いに対し、私たちはたくさんの本と出会う居心地の良い図書館であることに加え、さまざまな地域情報や活動の記録をストックし、それをアップデートしていく仕組みが必要だと考えました。新図書館の核に据えたシビックリングは、市民がまちを深く知る場であり、その場を市民自らの手でつくり、育てていく場です。シビックリングがつなぐ、まち・本・人の「輪」が、幾重にも重なり、まち全体をつなぎ、より豊かに、元気にしていく。これからのひたちなか市のハブとなる、新しい時代の図書館を目指しました。

家具デザイナー TAAO あいだ としひさ 會田 倫久さん(左)



ooU
うえの おう
上野 黄さん(右)



建築家/デザイナー

東京工業大学大学院を修了後、2013年にスキーマ建築 計画入社。2021年 TAAO を設立し、家具・インテリアの設計から建築のデザインまで幅広く手がける。

プロフィール

千葉大学大学院を修了後、スキーマ建築 計画に入社し家具デザインを専門とするチームにて勤務。2024年にooUを設立。家具デザインを軸に公共施設や教育施設、オフィスなど幅広い分野で活動している。

家具デザイナー

主な実績

2023年「Slit Park YURAKUCHO」が日本建築美術工芸協会賞、グッドデザイン賞受賞。2025年「くらすわの森」が日本空間デザイン賞 銀賞受賞。

ハドロン宇宙国際研究センターラゴ内家具デザイン、千葉国際芸術祭 祭器設計、狛江湯家具デザイン、ほか

まちと共に成長する図書館の家具

図書館の家具を考えるにあたり、新図書館が立つ敷地である「公園」のおおらかな雰囲気に着目しました。公園は誰にでも開かれた場所であるため、世代や個性を超えて誰もが自由に振舞える場所です。そんな自由な感覚を建物の中にも感じられることで、図書館が日常的に立ち寄りたくなるお気に入りの場所の一つになることを目指し、設計を行いました。

施設計画の核となるシビックリングでは、ゆったりと座れるソファ席やちょっとした勉強や休憩に適したテーブルセットなど、滞在性の高い家具を多様に配置するほか、展示やワークショップなど市民の方々の活動を後押しする仕器も計画しました。

新図書館の家具は、建物の竣工時が完成ではありません。図書館と市民の方々が一緒になって使っていくことで、場所や家具の使われ方が少しずつ変化していくでしょう。まちの変化に合わせてゆったりと成長する家具デザインを目指しました。

サインデザイナー

株式会社 日本デザインセンター

やまぐち もえこ
山口 萌子さん



プロフィール

アートディレクター/デザイナー

2017年より株式会社日本デザインセンターに所属。身体的な体験や編集的視点を取り入れ、ブランディング、サイン計画、展覧会企画設計などのプロジェクトを手がけている。

主な実績

WWF ジャパンローカルブランディング、東京都庭園美術館「旧朝香宮邸を読み解く A to Z」展示計画、東京都現代美術館 触察模型「さわる／みつける MOT」企画設計など。TDC70 受賞、Dezeen Award Longlist、東京 TDC 賞入選、ADC 賞入選。

新しい中央図書館はどんな場所?

サインデザインは、来館者のみなさんがスムーズに図書館を利用できるようにするための機能であると同時に、「どのように過ごせる場所なのか?」を感覚的に伝える役割も担います。

新図書館のサインでは、空間の核となるシビックリングをめぐる楽しさ、そこから広がる本の多層的な面白さを伝え、来館者が館内を散策したくなるようなデザインを目指しました。

新図書館は日々の暮らしの中でどのような存在になるのか、新図書館ならではの楽しさや居心地とは何かといった議論を重ね、矢印の形状や色づかいにも「新図書館らしさ」を込めています。

竣工は少し先ですが、サインを手がかりに、新図書館を巡っていただける日を楽しみにしています。

Project Outline

計画概要

□ 建築計画概要

施設用途：図書館法第2条第2項に規定する公立図書館
建築面積：約3,500㎡
延べ面積：約4,500㎡(1階3,135.12㎡/2階1,270.56㎡)
構造：鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)
階数：地上2階 収蔵可能冊数：約40万冊
駐車台数：約120台 座席数：約450席
駐輪台数：約80台 省エネ適合：ZEB Ready

□ 敷地概要

施設名称：ひたちなか市立中央図書館
地名地番：茨城県ひたちなか市石川町地内25番、25番3
敷地面積：30,174.55㎡(内、図書館計画範囲：約9,000㎡)

Project Credits

プロジェクト関係者

設計：(株)山下設計
家具デザイン：TAAO + ooU
サインデザイン：(株)日本デザインセンター
ランドスケープデザイン：(株)ランドスキップ + (株)空間創研
照明デザイン：Lumimedia lab(株)
環境デザイン：deXen LLC.

Design and Operations Advisor

設計・運営等アドバイザー

中井 孝幸 / 愛知工業大学 工学部 建築学科 教授
山田 あすか / 東京電機大学 未来科学部 建築学科 教授
叶 多 泰 彦 / 千葉経済大学短期大学部 ビジネスライフ学科 教授
小 泉 公 乃 / 筑波大学 図書館情報メディア系 准教授

新中央図書館設計イメージブック

みんなで作る図書館

2026（令和8）年 編集発行

発行：ひたちなか市教育委員会中央図書館

〒312-0044 茨城県ひたちなか市元町5番3号

TEL.029-273-2247

